

広島市の近代史博物館の現状把握と近代史展示の考察 —都市の近代化を扱う博物館の役割—

背景・目的



広島市の博物館は美術や平和などのテーマは充実しているが、原爆以前の人々の生活を十分に説明しているとは言い難い。しかし、人々が都市の歴史を理解することは、その都市のアイデンティティを形成する上で重要である。特に、現代とのつながりが深い都市の近現代史を気軽に学べる場が必要だと考えた。本プロジェクトは、広島において都市の成り立ちや発展の歴史を学べる施設が必要であるという視点から活動を行った。

活動成果

成果① 広島市内の博物館の調査

広島市郷土資料館、平和記念資料館、広島市平和記念公園レストハウスを調査した。広島伝統工芸や原爆による被害の展示はあったが、戦前の街並みや暮らしが分かる展示は少なかった。

成果② 大阪・神奈川の博物館の調査

大阪歴史博物館、大阪くらしの今昔館、神奈川県立博物館、横浜開港資料館を調査した。2つの都市には近代についての展示があり、展示方法も実物大の模型やジオラマなどを用いた親しみやすい工夫がされていた。



写真出典：調査中に撮影。左から神奈川県立歴史博物館展示・外装、大阪くらしの今昔館展示。

成果③ 近代広島市の文献調査

「明治時代の広島」や「絵葉書の中の広島」などの資料から、戦前の広島について調査した。現在の繁華街は現JRや路面電車がルーツにあること、大阪の繁華街にあやかった地名が存在したことが分かった。



写真出典：絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～, 広島市郷土資料館(2013)